

2024 検査と健康展 in 鈴鹿 レポート

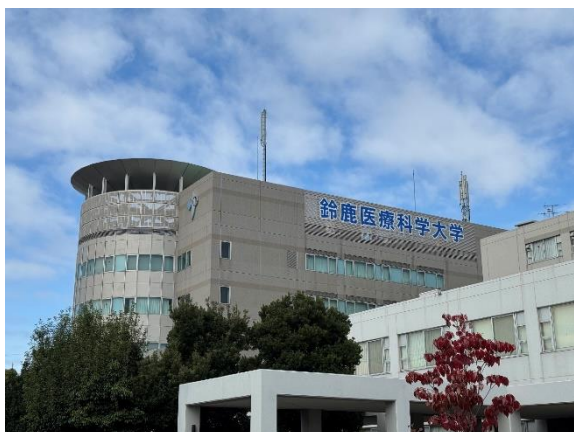
令和6年度（2024年度）全国検査と健康展を開催して

三重県臨床検査技師会 公益事業部長 林 豊

令和6年11月17日（日）に鈴鹿医療科学大学にて全国『検査と健康展』を開催しました。今年度より公益事業部長を務めており、この規模の大きなイベントの運営は初めてとなります。朝は不安な気持ちがありつつも、意気込みと大量の荷物を持って会場に向かいました。空は曇っており天気が心配されましたが、日中は日も照りだし汗ばむ陽気となってくれました。

会場で行う検査は、骨密度測定、血管年齢測定、認知症プログラム、頸動脈エコー、簡易ヘモグロビン測定の5項目で、希望者には検査説明コーナーを設けて詳しく説明する場を設けました。スタッフは三臨技会員36名と、鈴鹿医療科学大学、四日市医療看護大学の学生および教員14名の総勢50名で行いました。大学の学生の方にも学校紹介や顕微鏡を使った体験コーナーを設置し、会場のお手伝いをして頂きました。また昼休みを利用して臨床検査技師に関する講演会を行いました。技師による臨床検査技師のお仕事紹介や健診の重要性、さらに学生による臨床検査技師を目指した自分の将来や希望を講演してもらいました。

参加者は約150名で朝一番は混雑もしましたが、最終的に多くの方にすべての検査を実施することが出来ました。このイベントを通して臨床検査の重要性と、健康に対する意識の向上が得られたと思います。また新しく作成したポロシャツには背中に『わたしたちは臨床検査技師』とプリントされており、臨床検査技師の知名度アップにも貢献できたと思います。



2024年11月17日 鈴鹿医療科学大学で開催

鈴鹿医療科学大学で初めて開催された「検査と健康展」には、150名を超える方々が参加し、大盛況のうちに終了しました。このイベントは、臨床検査技師の仕事を広く知ってもらうことを目的に開催され、参加者にとっては、自身の健康を見つめ直す貴重な機会となりました。

開催前のメッセージで士気を高めました

「検査と健康展」開催に先立ち、林理事と宇城会長よりスタッフへ向けたご挨拶がありました。林理事からは「イベントを楽しむこと」をテーマに、スタッフ自身がポジティブな姿勢で取り組む大切さを強調されました。一方、宇城会長からは「検査と健康展の意義」についてのお話があり、臨床検査技師の役割やこのイベントが地域医療に与える影響を再認識する機会となりました。

この二人の言葉は、スタッフ一人ひとりの心を引き締め、イベント成功への意欲を高める原動力となりました。



林 理事

宇城 会長

新たにポロシャツを作成し、チームの一体感を強化

スタッフのチームワークをさらに強化するために新たにポロシャツが作成されました。このポロシャツは、スタッフ全員が一体感を感じながら協力し合うための象徴となり、イベントの準備段階から着用し、全員の気持ちを一つにまとめました。

スタッフたちは新しいポロシャツを着て、共通の目標に向かって団結し、来場者を温かく迎える準備を整えました。このような工夫が、イベント全体の雰囲気をもっと充実させ、一体感を生み出す原動力となりました。



新たにポロシャツを作成

充実したブース内容

会場には多様な健康チェックのブースが設置され、来場者はさまざまな検査を体験しました。骨密度測定、血管年齢測定、認知症プログラム、頸動脈エコー、簡易ヘモグロビン測定のコナーが開設されました。これらの検査を通じて、自分の体の状態を具体的に知ることができ、健康意識が高まったという声が多く寄せられました。



楽しそうに参加していただいたスタッフの方々

三重テレビの取材が臨床検査技師の魅力を発信

三重テレビの取材が入り、イベントの様子が地域に広く発信されました。取材を担当したのはアナウンサーの伊佐治好音さん。彼女は取材から撮影、原稿作成、編集、アナウンスまでを一人でこなす多才さを発揮し、その姿は「タスクシフト・タスクシェア」の実践例としても注目されました。

医療界でもタスクシフトやシェアが進められている中、伊佐治さんの柔軟な働き方は、われわれも見習うべきと感じました。三重テレビの取材を通じて、臨床検査技師の重要性やイベントの意義が地域社会に広く伝わり、多くの人々にその魅力を知ってもらうきっかけとなりました。



三重テレビの取材風景

学生たちが活躍！参加者と笑顔で交流した学生ブース

鈴鹿医療科学大学と四日市看護医療大学の学生たちが学生ブースを開設し、来場者と直接交流しました。ブースでは、学生たちが明るい笑顔で親切に対応し、参加者の質問に丁寧に答える姿が印象的でした。

若い世代が積極的に地域の健康増進に関わる姿は、参加者からも「とても親しみやすく、検査や健康について分かりやすく教えてもらえた」と好評を得ていました。学生たちの真摯な取り組みが、イベント全体の温かい雰囲気を作り出していました。



未来は明るい 臨床検査技師の学生さん達

ミニ講演会

「検査と健康展」の一環として行われたミニ講演会では、米田理事の名司会のもと、臨床検査技師の重要性と未来についての貴重な話が展開されました。青木技師は臨床検査技師の仕事について具体的な業務内容と専門性、患者への貢献を紹介し、広瀬理事はがん撲滅に向けた取り組みと、臨床検査技師が果たす役割について説明しました。さらに、鈴鹿医療科学大学と四日市看護医療大学の学生2名が登壇し、現在学んでいる内容や未来の臨床検査技師像について語り、学校紹介も行いました。学生たちは将来のキャリアに対する熱意を語り、参加者に向けて医療の未来について考える機会を提供しました。この講演会は、臨床検査技師の重要性を再認識し、学生たちの情熱と可能性を感じることができた貴重な時間となりました。



青木 技師



広瀬 理事

学生発表

「検査と健康展」に参加して

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部・臨床検査学専攻 山口 史

三重県臨床検査技師会主催の検査と健康展に参加させていただきました。会場では超音波や血管年齢等の検査が実施されており、多くの方が受診されていました。みなさんの健康に気づかう姿を見て、臨床検査の関心の高さに驚きました。

私も「臨床検査技師を目指して」というテーマで発表させていただきました。発表後には、「良かったよ」と言ってくれる方がたくさんいて温かいお言葉がすごく励みになりました。より一層、理想の臨床検査技師になれるよう努力していきたいと思いました。これから臨地実習や就職、国家試験合格に向けても頑張っていこうと考えています。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



「検査と健康展」に参加して

四日市看護医療大学 高塚 風香

「検査と健康展」に参加して、臨床検査技師という職業について自分も改めて考えることができました。臨床検査技師はあらゆる分野の検査に関わっていますが、一般の方にはそれがあまり知られていないように感じました。そのため、臨床検査技師を知っていただくためには、今回のようなイベントを開催することの他にも、「検査を担当する臨床検査技師です」と名乗ることも効果的であると思いました。また、検査結果も興味を持って詳しく聞いていただくことが多かったのですが、病院では「結果は先生からお伝えします」としかお答えできないので、今回のように臨床検査技師から直接検査結果について患者さんにお伝えできる機会が増えたらいいなと思いました。臨床検査技師の方々は、患者さんと対面して検査をすることに慣れており、1人1人の目を見て対応しているのを見て、自分もこのような臨床検査技師になりたいと思いました。



みんな笑顔で集合写真

検査と健康展の集合写真に寄せて
集合写真を見ると、あの日の温かい雰囲気がよみがえり、自然と顔がほころびます。笑顔には不思議な力があります。それは人と人をつなぎ、未来へのエネルギーを与えてくれるもの。私たちが手を取り合い、地域の健康を守るために努力していることがこの写真から伝われば幸いです。

